

要配慮者の特徴と備え・避難時のポイントについて

高齢者

<特徴>

●ひとり暮らし高齢者・高齢者のみの世帯の方

- ・体力が衰え、行動機能が低下し緊急事態の察知や情報の収集等の行動が取りにくくなる場合があります。
- ・避難情報や緊急事態の察知が遅れる場合があります。
- ・夜間は家族と同居していても、昼間は高齢者のみとなる世帯もあります。

●介護等が必要な高齢者

- ・運動機能やバランス機能が低下していることから自力での行動が困難です。
- ・体温調節機能の低下から温度の変化等への適応力が弱くなっています。

●認知症高齢者

- ・自分で判断し行動することや自分の状況を説明することが困難です。
- ・認知症を引き起こす原因によってその症状は異なりますが、記憶障害、時間の感覚が薄れるなどの見当識障害、理解・判断力障害、実行機能障害、妄想、徘徊などの症状があります。

<備えや避難時のポイントについて>

【備えでのポイント】

- ・部屋は、倒れたり落ちてきたりするものがないような安全な空間を確保しましょう。
- ・本人に必要な介護用品等があれば、非常持ち出し品に加えておきましょう。
- ・避難時の移動に備えて車椅子、おんぶひもなどの移動手段を確保しましょう。
- ・日頃服用している薬等を持ち出せるように準備しておきましょう。

【避難時のポイント】

- ・車椅子での避難は必ず誰かが付き添いましょう。車椅子から離れるときは、ブレーキをかけましょう。

肢体不自由のある方

<特徴>

- ・車椅子や歩行器等の補助具がない場合、自力での移動が困難な場合があります。
- ・運動・動作が不自由なため、自力での衣服の着脱、食事、排泄等が困難な場合があります。

<備えや避難でのポイントについて>

【備えでのポイント】

- ・杖や歩行補助具等を使用している場合は、これらを身近な場所に置くようにしましょう。
- ・移動手段となる車椅子などは、転倒家具などの下敷きにならない場所に置きましょう。

【避難時のポイント】

- ・支援が必要な場合は、複数の人で避難するようにしましょう。
- ・車椅子を利用されている方には、必ず誰かが付き添いましょう。

内部障害のある方

<特徴>

- ・ほとんどの人が外見からは障害があることがわからず、自力歩行ができる方も多いです。
- ・障害の内容によっては、ストマ等の補助器具や薬の投与、通院による治療（透析等）が必要な場合があります。

<備えや避難時のポイント>

【備えでのポイント】

- ・日頃服用している薬や器具等を持ち出せるように準備しておきましょう。

視覚障害のある方

<特徴>

- ・光を感じない、文字が識別できない、見える範囲が狭いことなどがあります。
- ・音声による案内がないと、避難誘導指示の認識が困難な場合があります。

<備えや避難時のポイント>

【備えでのポイント】

- ・非常持出品のある場所を特定しておきましょう。
- ・災害情報を得るためのラジオや白杖、特殊眼鏡などは身近なところにおきましょう。

【避難時のポイント】

- ・一緒に歩く際は、半歩程度前に出て目の前の状況を知らせながらゆっくり歩きましょう。

聴覚障害のある方

<特徴>

- ・音声による避難・誘導指示の認識が困難な場合があります。補聴器等を使用する方もいますが、コミュニケーション手段として手話・筆記等があります。

<備えや避難時のポイント>

【備えでのポイント】

- ・非常持出品に補聴器用の電池、筆談用のメモ用紙や筆記用具を加えましょう。
- ・情報を視覚で訴えることが必要なので、テレビを利用した手話・字幕放送の活用、ファックス・メールやインターネットも活用しましょう。

【避難時のポイント】

- ・補聴器の使用や、手話、文字、絵図等を活用した情報伝達および状況説明が必要となります。

音声・言語機能障害のある方

<特徴>

- ・自分の状況を伝えることが困難なため、災害時に助けを求めることが困難になる場合があります。

<備えや避難時のポイント>

【備えでのポイント】

- ・非常持出品に、筆談用のメモ用紙や筆記用具を加えましょう。
- ・災害時に助けを求めることができるよう、音（ブザー）や光（懐中電灯）等で自分の存在を外部に知らせることのできるものを活用しましょう。

【避難時のポイント】

- ・言語機能障害のある人は理解力が低い場合があるので、文字、絵図等を活用したわかりやすい情報伝達および状況説明が必要となります。

知的障害のある方

<特徴>

- ・危機的状況を瞬時に判断して、危険回避のための行動をとることが困難な方がいます。
- ・急激な環境変化への対応が苦手な方で、時にパニックに陥り、行動停止することがあります。
- ・言語の発達の遅れを伴う場合、コミュニケーションに配慮が必要な方もいます。

<備えや避難時のポイント>

【備えでのポイント】

- ・緊急時の対応（避難の仕方、消火器の使い方等）を、日常生活において訓練しておく必要があります。

【避難時のポイント】

- ・気持ちを落ち着かせながら安全な場所へ誘導したり、生活行動を支援するなどが必要となります。
- ・動揺が激しく、言葉で理解されない場合は常に話しかけるなど不安を少しでも和らげ、手を引いて安全な場所まで避難しましょう。

精神障害のある方

<特徴>

- ・災害発生時に、精神的な動揺が激しくなる場合や、必要な訴えや相談ができなくなる場合があります。
- ・孤立しないよう家族や知人と一緒に行動できるような配慮が必要な方もいます。
- ・継続的な服薬や医療的なケアが必要な方もいます。

<備えや避難時のポイント>

【備えでのポイント】

- ・日頃服用している薬等を持ち出せるように準備しておきましょう。

【避難時のポイント】

- ・医療機関からの指示や緊急時の対処法等がある場合、周囲の人はよく理解しましょう。
- ・落ち着いて行動しようと声をかけましょう。
- ・孤立しないよう家族や周囲にいる人と一緒に避難しましょう。

発達障害のある方

<特徴>

- 突発的な状況の変化を読み取ることが苦手な方がいます。
- 言葉だけでは、災害の怖さ・避難支援の必要性を理解することができない場合があります。
- 声を掛けても反応がないなど、言葉でのコミュニケーションが困難な場合があります。
- 感覚が敏感なために、集団の中に入れなかったり、パニックになることがあります。

<備えや避難時のポイント>

【備えでのポイント】

- 日頃服用している薬等を持ち出せるように準備しておきましょう。

【避難時のポイント】

- 医師からの指示がある場合は周囲の人も理解しましょう。
- 孤立しないよう家族や周囲にいる人と一緒に避難しましょう。
- 避難の指示はゆっくり、具体的にだしましょう。絵や図が有効です。

難病患者

<特徴>

- 外見からは、難病患者であることがわからない場合があります。
- 特殊な薬剤や継続的な服薬、医療的ケアを必要とする方がいます。
- 医療機器を常時使用している方もいます。

<備えや避難時のポイント>

【備えでのポイント】

- 日頃服用している薬等を持ち出せるように準備しておきましょう。
- 人工呼吸器等を使用している方は、設定値のメモや、バッテリー等の予備電源及び物品の確保などをおきましょう。

【避難時のポイント】

- 療養者の状態をよく確認したうえで、避難させましょう。
- 落ち着いて一緒に避難するようにしましょう。

小児慢性特定疾病児童

<特徴>

- 外見からは、小児慢性特定疾病児童であることがわからない場合があります。
- 特殊な薬剤や継続的な服薬、医療的ケアを必要とする人がいます。
- 医療機器を常時使用している方もいます。
- 自ら判断して避難行動する能力がなく、保護者のサポートが必要な場合があります。
- 免疫力が弱く、風邪などの感染症にかかることがきっかけで重篤な状態になる場合があります。

<備えや避難時のポイント>

【備えでのポイント】

- 日頃服用している薬等を持ち出せるように準備しておきましょう。
- 人工呼吸器等を使用している方は、設定値のメモや、バッテリー等の予備電源及び物品の確保などをおきましょう。

【避難時のポイント】

- 療養児の状態をよく確認したうえで、避難させましょう。
- 大人が動揺すると子供にも伝わってしまうので、できるだけ普段通り接するよう心がけましょう。

妊産婦

<特徴>

- ・行動機能は低下していますが、基本的に自力での行動が可能です。
- ・月数に応じたサポートが必要です。

<備えや避難時のポイント>

【備えでのポイント】

- ・母子健康手帳、診察券、分娩時期の近い方は分娩準備物品、新生児に必要なものも持ち出せるよう準備しておきましょう。
- ・月数によりサポートが必要なることを覚えておきましょう。

【避難時のポイント】

- ・月数によっては身体が思うように動かないこともあるので、周囲の人は避難に同行するようにしましょう。

乳幼児

<特徴>

- ・自ら判断して避難行動する能力がなく常時、保護者のサポートが必要です。
- ・免疫力が弱く、風邪などの感染症にかかりやすく脱水症状を起こしやすいので注意が必要です。

<備えや避難時のポイント>

【備えでのポイント】

- ・非常持出品に、母子健康手帳、診察券、子ども医療受給券、紙おむつ、ウェットティッシュ、粉ミルク、水、哺乳びん、抱っこ・おんぶひも、バスタオル、ビニール袋などを準備しておきましょう。
- ・アレルギーがある子など、特別な配慮が必要な場合はその子にあった物を準備しておきましょう。

【避難時のポイント】

- ・大人が動揺すると子供にも伝わってしまうので、できるだけ普段通り接するよう心がけましょう。
- ・赤ちゃんの場合は抱っこ・おんぶひもを使って避難しましょう。

日本語に不慣れな外国人

<特徴>

- 日本で発生する災害や避難行動についての知識が不足している場合があります。
- 日本語での情報が十分理解できないので、災害情報等が伝わらない場合があります。

<備えや避難時のポイント>

【備えでのポイント】

- 外国語の表記のパンフレットや市のホームページでは英語、中国語（簡体字）、韓国語表記での日頃の備え等がありますので、災害時の知識を得ておきましょう。

【避難時のポイント】

- 外国人を見かけたら、簡単な日本語やイラスト、身ぶり手ぶりを使ってコミュニケーションをとり、孤立させないようにしましょう。